

巻頭言

本学は開学当初から、研究活動を推進するために様々な施策を講じてまいりました。その経緯について簡単に言及いたします。

1997年4月の開学直後から、初代学長の末松安晴先生は、研究遂行には大学院の早期設置が不可欠であることを提唱され、1期生の卒業を待たずに開学3年目の1999年4月に大学院修士課程と博士後期課程を開設しました。加えて、質の高い、特に萌芽的な研究の遂行には、研究者が自由に、創造的な研究を展開できる「場」が必要であるとして、同年に総合研究所を開所しました。その後、本学は2009年に公立大学となり、これを契機に、地域貢献を強力に推進する地域連携機構を設立して、地域が抱える課題の解決を図ってきました。研究の実施体制については、個人で行う研究を尊重しつつ、それと並行して、学術的・社会的に注目度の高い特定のテーマに大学全体または学科組織で取り組む学長プロジェクトや学科長プロジェクトも実施してきました。このようにして、本学は未来の社会に貢献できる研究成果を創出してまいりました。

さて、本巻には2つの特集テーマが組み立てられています。特集1は、総合研究所の活動の報告です。現在、総合研究所には6つの研究センター、1つの創発的研究センター、4つの萌芽研究センター／重点研究室、及び1つの産学共創センターが置かれており、そのうち3つの研究センターと2つの萌芽研究センター／重点研究室の研究活動が報告されています。特集2は、2016年に立ちあがった「里山工学プロジェクト」に関するものです。現在の地域連携機構には3つの研究ユニットが組織されており、そのうちの1つを構成する里山創成研究ユニットからの3件の活動報告が掲載されています。

本巻には他にも、2編の研究論文（うち1編は査読を経た論文）と、2名の教員が海外研修支援制度（教員のFDの一環であり、教育、研究の能力向上と国際的視野の拡大を図るための制度）を活用して海外研究活動を行った内容が掲載されています。

本巻の記事を通じて、本学の活動の一端を知っていただければ幸いに存じます。

学長 蝶野成臣

高知工科大学紀要

目次

特集1 高知工科大学総合研究所の活動報告

(研究センター)

1. 脳コミュニケーション研究センター —脳科学をめぐる学際研究の場を目指して—
岩田 誠, 門田 宏, 繁榎 博昭, 島根 大輔, 竹田 昂典, 竹田 真己, 松崎 公紀,
山中 麻央子, 吉田 真一, 渡邊 言也, 王 瑞敏, 中原 潔
2. 分子デザイン研究センター —異分野融合を目指して—
西脇 永敏

(萌芽研究センター／重点研究室)

3. Center for Human-Engaged Computing (CHEC)
—HCI から HEC へのパラダイムシフト—
任 向実
4. 視覚・感性統合研究室
—設置の背景と目標・研究テーマと成果・将来展望（第Ⅰ期～第Ⅱ期）—
篠森 敬三
5. 持続社会建設材料研究室
—二酸化炭素をコンクリート材料の高機能化と物質循環サイクル構築に活かす—
大内 雅博

特集2 里山基盤科学技術の社会実装モデルプロジェクト 2023

6. 里山工学の成果と今後（2023 年度版）
高木 方隆, 堀澤 栄, 渡辺 菊真, 赤塚 慎, 楠瀬 慶太, 村井 亮介
7. 里山における生物多様性保全のためのビオトープ作成とリジェネラティブ農業の検討
宇賀 大貴, 笹岡 南斗, 佐藤 京香, 竹内 将人, 高木 方隆, 村井 亮介
8. 金峯神社の本殿移設プロジェクト
石川 遼太郎, 南部 七音, 深江 翔希, 渡辺 菊真

研究論文

9. 事象関連電位を用いた限定商品における魅力の生起過程に関する検討（査読あり論文）
伊崎 翼, 森 雅斗, 小川 景子
10. 「仕事人秘録」に見るキャリア選択
山田 篤司

調査・活動報告

11. 英国 UCL での研修を終えて
浜村 昌則
12. AI が現代の教育に与える影響
Paul Daniels

Kochi University of Technology Research Bulletin

Contents

Feature Articles 1

Activity Reports from Research Institute, Kochi University of Technology

(Research Centers)

1. Research Center for Brain Communication
—Toward a Place for Interdisciplinary Research on Brain Science—
Makoto Iwata, Hiroshi Kadota, Hiroaki Shigemasu, Daisuke Shimane,
Akinori Takeda, Masaki Takeda, Kiminori Matsuzaki, Maoko Yamanaka,
Shinichi Yoshida, Noriya Watanabe, Ruimin Wang, Kiyoshi Nakahara
2. Research Center for Molecular Design
—Aiming for Development of Multidisciplinary Research Fields—
Nagatoshi Nishiwaki

(Exploratory Laboratory / Focused Research Laboratories)

3. Center for Human-Engaged Computing (CHEC)
—Paradigm Shift from Human-Computer Interaction (HCI) to Human-Engaged
Computing (HEC)—
Xiangshi Ren
4. Vision and Affective Science Integrated Laboratory
—Background, Purpose, Research Theme, Achievement and Future plan (from Phase I to
Phase II)—
Keizo Shinomori
5. Laboratory for Construction Materials in a Sustainable Society
—Utilizing Carbon Dioxide to Improve the Functionality of Concrete and Build Material
Circulation Cycles—
Masahiro Ouchi

Feature Articles 2

Activity Reports on Implementation of Science and Technology for “Satoyama” 2023

6. Results in SATOYAMA Engineering and the Issues
Masataka Takagi, Sakae Horisawa, Kikuma Watanabe, Shin Akatsuka,
Keita Kusunose, Ryosuke Murai
7. Biotope Creation and Regenerative Agriculture for Biodiversity Conservation in “Satoyama”
Daiki Uka, Minato Sasaoka, Kyoka Sato, Masato Takeuchi, Masataka Takagi,
Ryosuke Murai
8. Main Hall Relocation Project for the Kanamine Shinto Shrine
Ryotaro Ishikawa, Nao Nambu, Shoki Fukae, Kikuma Watanabe

Research Articles

9. Investigation of the Generating Process of Attractiveness in Limited-edition Products Using the Event-related Potential (Peer-reviewed Paper)

Tsubasa Izaki, Masato Mori, Keiko Ogawa

10. Career Choice as Seen in the “Confidential Records of a Professional”

Atsushi Yamada

Activity Reports

11. Brief Report on Research Residency at University College London (UK)

Masanori Hamamura

12. The Impact of AI on Modern Education

Paul Daniels